

## 海外感染症流行情報(2012年4月)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

### ・鳥インフルエンザ患者が増加傾向

東南アジアやエジプトでの鳥インフルエンザ患者(H5N1型ウイルス)の発生は4月も続いています。今年に入ってからの患者数は4月中旬までに24名になりました(WHO Global Alert and Response 2012-4-12)。患者発生はエジプト(9名)、インドネシア(5名)、ベトナム(4名)などで多くみられています。2010年は年間患者数が48名、2011年は62名でしたが、この数値と比較すると、今年は患者数が増加傾向にあることがうかがえます。また、今年は15名が死亡しており、ウイルスは相変わらず高い病原性を維持している模様です。今後もH5N1型ウイルスの流行状況には十分な注意が必要です。

### ・ウクライナでの麻疹の流行

ウクライナで今年になり麻疹の流行が発生しており、3月上旬までに患者数が4400名を越えました(厚生労働省検疫所HP 2012-4-10)。同国は本年6月からポーランドと共催でサッカー欧州選手権大会(UEFA Euro2012)を開催しますが、この大会を契機に欧州全域に麻疹の流行が拡大することが懸念されています。日本から本大会の観戦ツアーなどに参加する方は、麻疹ワクチンの接種についてご検討ください。

### ・東南アジアでのデング熱流行状況

WHO 西太平洋事務局の発表によれば、東南アジア各地のデング熱流行状況は例年並みとなっています(WHO Western Pacific Region HP 2012-4-3)。フィリピンでは約1万人、マレーシアでは6000人、ベトナムでは4000人の患者が報告されています。

インドネシアではバリ島でデング熱の流行が拡大しており、3月中旬には台湾からの観光ツアー客21名のうち6名が集団感染をおこしました(Pro MED 2012-4-9)。また、日本の国立感染症研究所の感染症発生動向調査によれば、最近1カ月間に日本で診断されたデング熱患者のうち、インドネシアでの感染者が最も多くなっています(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr-dl.html>)。5月のゴールデンウィーク期間中、バリ島には多くの日本人観光客が訪れますが、滞在中はデング熱予防のため、蚊に刺されない対策をとるようにしてください。

### ・日本での輸入感染症の発生状況(2012年3月12日～4月8日)

最近1ヶ月間の発生状況について国立感染症研究所の感染症発生動向調査を参考に編集しました。

出典：<http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr-dl.html>

1) **経口感染症**: この期間中に細菌性赤痢13例、腸チフス4例、パラチフス1例、A型肝炎4例、E型肝炎2例、アメーバ赤痢6例が輸入例として報告されています。細菌性赤痢、腸チフス、パラチフスはインドでの感染例が多くみられます。A型肝炎は3例がアフリカ(エジプト、ガーナ、ケニア)、E型肝炎は全例がアジア(中国、ベトナム)、アメーバ赤痢は全例がアジア(タイ、フィリピン、中国)での感染例です。

た。

**2)蚊が媒介する感染症:**デング熱 10 例、マラリア 4 例が報告されています。デング熱は全例アジアでの感染例で、このうちインドネシアが 5 例と最多でした。マラリアは 3 例がアフリカ(ザンビア、ギニアなど)での感染例でした。

**3)麻疹:**輸入例として 5 例が報告されています。感染国は中国、タイ(2 例)、インド、パキスタンでした。

**4)その他:**レジオネラ症の輸入例が 3 例報告されており、感染国は中国、インドネシア、北マリアナでした。真菌によるコクシデイオイデス症の輸入例も 1 例報告されており、感染国は米国(アリゾナ州)でした。